

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2024年1月16日（第1.0版）

承認番号	23149
課題名	開心術後患者における早期リハビリテーションの状況把握と術後 ADL 回復を阻害する要因の検討
研究期間	西暦 2024 年 2 月 22 日（実施許可日）～2025 年 3 月 31 日
研究の対象	2022 年 1 月～2024 年 9 月に当院で開胸による心臓の手術を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<p>■ 診療情報（詳細：年齢、性別、既往歴、入院期間、血液検査データ、治療内容・経過、術後のリハビリテーションの状況 等）</p> <p>□ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p>□ 血液</p> <p>□ その他（ ）</p> <p>■ 利用予定日（実施許可日から 1か月後）</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	<p>術後の早期リハビリテーション介入は、退院時の日常生活を営む能力の回復を向上させる効果があることがわかっています。そのため、早期リハビリテーションは昨今とても重要視されており、その導入を促進する動きが盛んです。しかしながら、早期リハビリテーションのプログラムは未だ確立されていない医療施設も多く、最適な運動強度や運動時間は未だ明確にはなっていない現状があります。また、術後の日常生活を営む機能（ADL）の回復を妨げる要因は様々なものがあり、それらの関連性も複雑で、明らかになっていない部分も多い現状があります。</p> <p>本研究では、心臓外科開心術を受けた患者さんの早期リハビリテーションの状況を把握し、術後の日常生活を営む能力の回復を阻害する要因を検討することを目的としています。</p> <p>目的を達成することができれば、今後の早期リハビリテーションに関わるスタッフの情報収集の視点が的確になり、より安全で効果的な介入に繋がっていく可能性があります。日常生活を営む機能（ADL）の回復を阻害する要因が明らかになることで、その要因に対する介入を正確に行えることに繋がります。また本研究において早期リハビリテーションの評価は、近年発表されたモビリティクオントリフィケーションスコア（Mobilization Quantification Score : MQS）という指標を用います。共通の評価指標を用いることで、今後、早期リハビリテーションの研究がより促進される可能性も期待できると考えています。</p>
研究の方法	診療録より、上記記載の情報を収集して統計解析を行います。
その他	特記することはありません。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧する事が出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：吉川 翼

所 属：旭川医科大学大学院医学系研究科修士課程

勤 務 先：旭川医科大学病院看護部 ICUナースステーション

所 在 地：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

電 話 番 号：0166-69-3570（直通）

E-mail : tubaba6094@o365.asahikawa-med.ac.jp